多剤アレルルギーによる特異な術後経過を呈したMRSA中耳炎の一例

山本　聡　任書晃　長谷川達央
瀧　正勝　柴田敏彰　松波達也
坂口博史　鈴木敏弘　久育男
京都府立医科大学 耳鼻咽喉科学教室

弛緩部型中耳真珠腫に対する鼓室形成術後に続発したMRSA感染症について抗生剤治療を行ったが，多剤アレルギーと重篤な全身合併症のために集中治療を必要とした症例について報告する．術後２日目に38度の発熱があり，耳後部より多量の膿汁排泄を認めた．細菌検査でMRSAが検出されたためにテイコプラニンを開始した．徐々に発熱軽快したが13日目に再び発熱し，抗生剤をバンコマイシンに変更したところ全身に紅斑を伴う丘疹を認めた．汎血球減少，腎機能障害，肝機能障害が出現したために重症薬剤アレルギーを疑い，副腎皮質ステロイド治療を行った．DLST検査でテイコプラニン，バンコマイシン，パニペネム全てに対してアレルギーを認めた．ヒトヘルペスウイルス６抗体価の上昇を検出した．ヒトヘルペスウイルス６の再活性化が薬剤過敏症と多臓器障害に関与する可能性について考察する．